



実践のコツ & 絵本の選び方



WANPUG



はじめに

この冊子は、図書館や幼稚園、小学校などで集団の子ども達に向かって読み聞かせを行っている方や、これから読み聞かせの活動を始めてみたいと考えている方に向けてのガイドブックです。

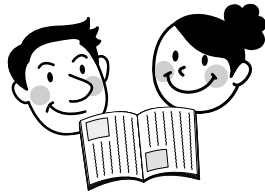
親が家庭で行う読み聞かせと、集団を前にしての読み聞かせではどこが違うのでしょうか？このガイドでは、集団を対象とした読み聞かせの基本から始まり、注意したほうがよい点、どこにポイントを置いて絵本を選んだらよいかなどを、対象別にアドバイスしています。

また、巻末では読み聞かせを効果的に行うための、「読み聞かせの会」の企画やプログラム構成についても記しています。

子ども達が本に親しむ機会を作り、本を読むことの楽しさ・喜びを伝えていくためにこのガイドを活かしていただき、読み聞かせの技を磨いてください。

目次

はじめに	1
読み聞かせの基本	2
読み聞かせの注意点Q & A	4
赤ちゃんへの読み聞かせ	6
赤ちゃん向け絵本の選び方、赤ちゃんにおすすめの絵本	7
幼児への読み聞かせ①、幼児におすすめの絵本	8
幼児への読み聞かせ②、幼児向け絵本の選び方	9
小学生への読み聞かせ	10
小学生向け絵本の選び方、小学生におすすめの絵本	11
特別支援学校・特別支援学級での読み聞かせ 絵本の選び方、おすすめ絵本	12
やってみよう！読み聞かせの会	13



【読み聞かせの基本】

✓ 読み聞かせとは

絵本を子どもに見せながら読んで聞かせる「読み聞かせ」は、「読み語り」「読み合い」ともいわれ、1960年代の教育運動から盛んになった活動です。子どもに本の世界の楽しさを伝え、本と子どもを結ぶ重要な手段とされており、全国の図書館や学校などで実施されているほか、子育てのコミュニケーションツールとして、子育て支援センターや保育現場などでも盛んに取り入れられるようになってきました。

ここでは、集団での読み聞かせの基本について説明します。

✓ 子どもにとっての読み聞かせ

読み聞かせは、子どもが本と出会うきっかけになります。また、子どもが読み手の声を通して本の世界を味わい、読み手は子どもの様子を見て読み方を工夫するといったように、一冊の本を通じた交流も生まれます。同じ本を読むという体験を他の子どもたちと共有する貴重な機会でもあります。その結果として、子どもが頭の中で物語をイメージする助けになったり、言葉の発達につながったりするなどの効果があるといわれています。

✓ 読み聞かせの手順・方法

おおよそ次の手順で進めていきます。

- ① 読み聞かせをする対象を把握する
- ② 読み聞かせに使う本を選ぶ
- ③ 練習する
- ④ 読み聞かせ実行
- ⑤ 反省・記録



まず、どんな子ども達に読み聞かせをするのかを把握しておきます。年齢によって本の難しさや分野が決まってきます。人数の多い時は、後ろの子どもまで見えるような大きさの本であるか、または、そう描かれているかを考える必要があります。読む場所が学校なのか児童館なのかによって興味や理解度の幅が違ってきますし、読み聞かせに与えられる時間によって絵本を読む時間の長さや冊数を考えなければなりません。

集団の読み聞かせに向いている絵本は、遠目がきく絵本、絵と文のバランスが取れた絵本、絵を見ながら耳で聞いて楽しめる絵本だといわれています。数多くの絵本が出版されていますが、『おやちれんがすすめるよみきかせ絵本 250 低学年向 2003～2012』（親子読書地域文庫全国連絡

会／編 絵本塾出版 2013年) など、読み聞かせに向く絵本を紹介したブックリストもたくさん出版されています。図書館で読むなどして、実際に絵本を手にとってみましょう。読む絵本の候補が決まったら、声に出して読んでみましょう。黙読した時に良いと思っても、読み聞かせをしてみるとじっくりこないこともあります。声に出して読んでみて、心地よいと感じられる言葉の本を選ぶようにしましょう。

絵本の持ち方は様々ですが、ここでは身体の横に持つ方法を紹介します。片手で本の「のど」の下部分をしっかり持ち、脇をしめて本が前後左右に傾かないようにします。もう片方の手で、絵が見えやすいようにページの端を押さえて持ちます。本に開きぐせをつけておくと持ちやすくなり、聞き手にも絵が見えやすくなります。読む時は、最初に本の題名をはっきり言い、絵本の方を見ながら文章をゆっくりはっきり読みます。ページをめくる時は不自然な間があかないようスムーズにめくり、タイミングや間を考えて絵をじっくり見せる時間をとってあげましょう。最後まで読んだら裏表紙までしっかりと見せます。



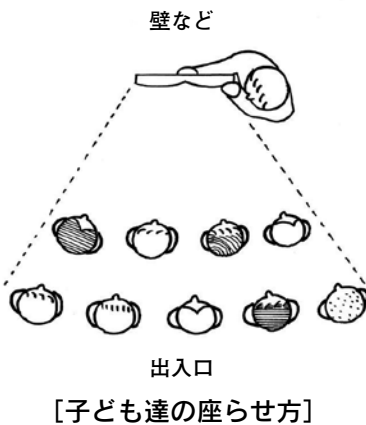
【絵本の持ち方】

いよいよ本番になったら、落ち着いて臨みましょう。読み手が緊張していると子どもも緊張してしまいます。子どもの前に出たら、全員に絵が見えるかどうかを確認し、必要があれば自分がいる位置をずらしたり子どもを移動させたりして環境を整えます。読むときは一番後ろの子どもに声を届けるつもりで読みます。余裕が出てきたら子どもがどんなふうに聞いているか、終わった後どんな状態かなどを確認しておきましょう。

読み聞かせ終了後、読んだ本やかかった時間、子ども達の反応、自分の反省点などを記録しておきます。グループなどで読み手が何人もいる場合は、次に読み聞かせをする時の参考になります。

具体的にイメージがわからない時は、実際に図書館などで開かれている読み聞かせの会などに行ってみましょう。その場合は、大人が見学して良いか事前に確認します。何はともあれ1冊本を選んで読み聞かせをしてみることが大切です。悩んだ時は読み聞かせグループの先輩に聞いたり、図書館に相談したりするのも一つの方法です。

読み方の注意点については次の章で解説します。対象別の読み聞かせについて、また読み聞かせの会の組み立てについては別の章で解説します。



参考文献

『絵本が育てる子どもの心』 松居直／著 日本キリスト教団出版局 2004年
 『絵本の事典』 中川素子／ほか編集 朝倉書店 2011年
 『お話会のプログラム』 佐藤涼子／著 出久根育／画 編書房 2006年
 『おやちれんがすすめるよみきかせ絵本 250 低学年向 2003～2012』 親子読書地域文庫全国連絡会／編 絵本塾出版 2013年
 『3歳から6歳までの絵本と童話』 鳥越信、森久保仙太郎／著 誠文堂新光社 1967年
 『新・こどもの本と読書の事典』 黒澤浩／ほか編 ポプラ社 2004年
 『図書館ブックレット8 読み聞かせ』 蔵元和子／[ほか]著 図書館流通センター 2003年
 『読み聞かせわくわくハンドブック』 代田知子／著 一声社 2001年



【読み聞かせの注意点Q&A】

Q 声色を変えて読んだ方がよいか？

A 大きさに声色を変えたり、身振り手振りをつけたり、表情を変えたりすると、子どもは絵本ではなく、読み手を見てしまい、本の世界から現実世界に引き戻されてしまいます。登場人物の違いを出したい場合などは、声の大きさや高さなどを、ほんの少し変えてみてはいかがでしょうか。例えば、『三びきのやぎのがらがらどん』（マーシャ・ブラウン／え せたていじ／やく 福音館書店 1965年）を読む場合、一番小さいヤギは少し小さい声でしゃべり、橋も軽々渡る、中くらいのヤギは元気よくしゃべる、大きいヤギは少し低い声でしゃべり、橋も体格が大きくがっしりしたヤギが重そうに渡るなどのように工夫できます。

Q アドリブを入れてもよいか？ また、途中で質問をしてくる子どもにどう対応すればよいか？

A 「読み聞かせは耳からの読書です。読み手が勝手に本の中のことばを変えたり、よけいなことばを加えたりしてはいけません。」（『読み聞かせわくわくハンドブック』p.51（前掲書））と主張する方もいます。本に書かれた文章は、場面場面で絵と合うようによく考えられた文章です。日本語を覚えるためのテキストではありませんので、読み聞かせでは言葉の響きやリズムを楽しみ、1つ1つ説明するのはやめましょう。わかりにくいと思われる言葉も言いかえたりしないで読み、子どもから何か質問があった場合は、中断しない程度に簡単に説明しましょう。

「僕、知ってるよ!」「すごいね」など感想があった場合は、その子どもの目を見てうなずき、聞いていることを伝える合図を送ると落ち着くので試してみましょう。

Q 朝の読書の時間が10分間しかないため、選んだ本が時間内に読み終わらない。そこで最後の部分を適当にはしょって読んだがよいか？

A 長いからと文章をカットしてしまうことは、本を作った著作権者に断らずに行う「内容の改変」になるためやめましょう。事前の練習で必ず時間を計り、時間内に終わらない場合は、時間内に収まる作品に替えましょう。

Q 絵本の文字がよく見えないのだが、どうすればよいか？

A 中高年になると老眼などでだんだん文字が見えにくくなってきます。とはいえ、絵本の前に覆いかぶさったり、絵本を読み手ばかりに見えるようにすると、子ども達に絵が見えにくくなります。まず、本を持った時に手前のページが見えるように、絵本を持つ手を少し後ろに引きましょう。次に、手前のページは子ども達と並行にしたまま、奥側のページを少しこちらに見えるように角度を変えると見えやすくなります。子ども達に絵本がよく見え、自分にもよく見えるように、絵本の持ち方を工夫しましょう。

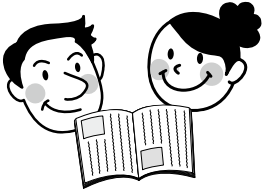
Q 音や場面に合わせて絵本を動かしてもよいか？

A 例えば『おおきなかぶ』（A.トルストイ／再話 内田莉莎子／訳 佐藤忠良／絵 福音館書店 1966年）のかぶを引っぱる場面で、「うんとこしょ どっこいしょ」のかけ声に合わせて、本を左右に大きく動かす方がよいと思われるかもしれませんが、見ている子どもにとっては、絵が動いてしまい何も読み取れません。本を揺すったり、両端の子どもに見えるように動かしたりするのはやめましょう。最初から全体の子どもに見えるように絵本の位置を決め、ぐらぐらしないようにしっかり持ち、絵をじっくり見せましょう。

Q 絵本の途中で歌が入るが、楽譜がない。どう歌う？

A 子ども達は歌が入った絵本も大好きで、その場面を集中してよく聞いています。わらべうたや童謡などは、子どもの歌の本に楽譜が掲載されていますので確かめましょう。『ぐりとぐら』（中川李枝子／文 大村百合子／絵 福音館書店 1967年）のような創作絵本の場合は、読み手ごとにいろいろなメロディーが生まれ、100通りの歌い方があると言われます。オリジナルのメロディーで歌ってみましょう。





【赤ちゃんへの読み聞かせ】

✓ 発達と絵本

「言葉もよくわからない赤ちゃんは絵本に興味がないのでは？」「赤ちゃんに絵本の読み聞かせなんて…」と思っている方はいませんか？いいえ、赤ちゃんはきちんと絵本を理解し、絵本を楽しんでいるのです。言葉では表現できませんが、全身でサインやメッセージを送ってきます。

赤ちゃんは生後6ヵ月ぐらいになると絵本に関心を示し始めます。笑ったり、手足をバタバタさせたりして喜びを表現します。

7～8ヵ月頃には視力が上がり、物を認識できるようになって、ますます絵本に興味を示し、絵本の世界を楽しむようになります。身近なものが登場すると「あー」「うー」などの声を出して反応します。

言葉を話し始める1歳前後には、絵本の中に自分の知っているものを見つけると、おぼえたての言葉を使って思いを伝えようとします。絵本との深い関わりが生まれてくるのです。

1歳半ぐらいの赤ちゃんは一人歩きができるようになり、絵本よりも他のものに興味を示し、動き回るのが大好きです。しかし、2歳頃には落ち着きを見せるようになり、ママやパパの膝で絵本の読み聞かせが聞けるようになります。

赤ちゃんにとって絵本との出会いは、言葉や心を育む大切なものです。赤ちゃんと絵本との関係を大事にしていきたいものです。

✓ 読み聞かせのコツ

①言葉が育つ大切な時期です。

リズムカルな美しい言葉の絵本を選んであげましょう。

②絵本を読む時には、はっきり、ゆっくり、心を込めて読んであげましょう。

また、絵をじっくり見せるために、ページは少しゆっくりめくるとよいでしょう。

赤ちゃんが喜ぶとママやパパも楽しい。ママやパパが楽しいと赤ちゃんもうれしい。そこから親子の絆が深まります。また、本と出会い、一緒に楽しむことで、家庭での読み聞かせにもつながります。読み聞かせの会で赤ちゃんとママ・パパと一緒に楽しめるような時間を目指しましょう。





赤ちゃん向け絵本の選び方

家庭で読み聞かせをする場合は特に決まりなどはありませんが、読み聞かせの会など不特定多数の赤ちゃんに向けた読み聞かせでは、次のような点を考慮して本を選ぶとよいでしょう。

- ① 赤ちゃんの基本的な生活にそった、身近なものや遊びなどが出てくる本
- ② シンプルなくり返しが出てくる本
- ③ リズミカルな言葉やわかりやすい言葉、美しい日本語で表現された本
- ④ 擬声語や擬態語が出てくる本
- ⑤ 絵の色彩や輪郭がはっきりしていて、遠目がきく本
- ⑥ 見開きに一場面が描かれている本
- ⑦ シンプルな絵で描かれている本

以上のようなものの中から、赤ちゃんに読んであげたいと思う、自分の好きな本を選ぶことが大切です。また、それぞれの赤ちゃんの聞く力には差があるので、家庭など一対一で読む時より少しやさしい本を選ぶようにしましょう。長く読み継がれているものや、定番と言われるもの、また読み聞かせに向くブックリストなどで紹介されている絵本の中から選ぶことをおすすめします。

参考文献

- 『赤ちゃんからの絵本ガイド』 主婦の友社／編 主婦の友社 2007年
『赤ちゃんと絵本であそぼう!』 金澤和子／編著 一声社 2009年
『ようこそ絵本の世界へ』 寺澤敬子／著 上毛新聞社事業局出版部 2013年
『よくわかる0～5歳児の絵本読み聞かせ』 徳永満理／著 チャイルド本社 2013年
『読み聞かせわくわくハンドブック』(前掲書)

赤ちゃんにおすすめの絵本



『いないいないばあ』

にやあにやあが「いない いない…」、くまちゃんが「いない いない…」。ページをめくると「ばあ」と楽しい表情であらわれます。赤ちゃんと一緒に絵本で「いないいないばあ」と遊んでみませんか？

松谷みよ子／文 瀬川康男／絵 童心社 1967年



『おつきさまこんばんは』

夜になって部屋に明かりがとれる頃、おつきさまが顔を出します。あれ？黒い雲がおつきさまを隠してしまいました。でも、雲が動いて、「あー よかった」。赤ちゃんもホッとします。

林明子／さく 福音館書店 1986年



『がたんごとんがたんごとん』

小さな汽車が「がたん ごとん がたん ごとん」と走ります。「のせてくださいー」とコップやスプーン、リンゴやバナナたちがやってきて…。リズムカルな言葉のくり返しが楽しい絵本です。

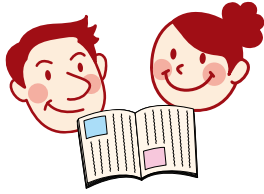
安西水丸／さく 福音館書店 1987年



『もこもこもこ』

「もこもこ」「によき」「ぶうつ」…不思議な絵といろいろな言葉。その言葉に赤ちゃんは引き込まれ、まねしてみたくなるでしょう。赤ちゃんから大人まで、それぞれの楽しみ方ができる絵本です。

谷川俊太郎／作 元永定正／絵 文研出版 1977年



【幼児への読み聞かせ①】

✓ 発達と絵本

幼児とは、概ね1歳～小学校入学前までと定義されており、この期間には言語の獲得や自我の目覚め、それによる自己主張、依存から自立、受動から能動へ、仲間との協調など、年齢を追うに従い心身共に大きな発達を遂げていきます。赤ちゃんの頃に比べて、ある程度の物語絵本を楽しむことができるようになります。

✓ 読み聞かせのコツ

読み聞かせでは、「自分が好きな本、楽しいと思える本を読む」ことが大切ですが、幼児の場合、発達の段階に応じた絵本を選ぶことも重要になってきます。

集団の幼児を対象とした読み聞かせを行う場合に心がける点として、

- ①絵本はある程度大きく、絵がはっきり見えるものを選ぶ
- ②全員から絵がよく見えるか確認し、本はしっかり見えるように開く
- ③事前によく下読みし、一番後ろの子どもにも聞こえるように読む
- ④表現がオーバーになりすぎないように注意する

ことなどが挙げられます。

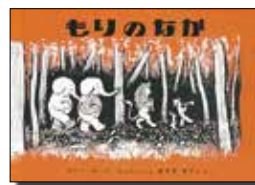
幼児におすすめの絵本



『おおきなかぶ』

おじいさんが植えたかぶは、とても大きなかぶに育ちます。おじいさん一人では抜けず、どんどんひっぱる人が増えて、ようやく抜けます。「うんとこしょ どっこいしょ」のくり返されるかけ声や、かぶを抜く様子が見開きで表される構図には見応えがあり、子どもたちを自然に絵本の世界に引き込みます。

A. トルストイ/再話 内田莉莎子/訳 佐藤忠良/絵 福音館書店 1966年



『もりのなか』

「ほく」が森に散歩に出かけると、いろいろな動物がついてきます。みんなで楽しく進んでいって、ジャムを食べたり遊んだりしていると、お父さんが迎えにきて…。白と黒で表される「もりのなか」は、子どもを空想の世界に誘い、想像力を豊かなものにします。

マリー・ホール・エッツ/ぶん・え まさきりこ/やく 福音館書店 1963年



『てぶくろ』

おじいさんが森に落とした片方のてぶくろ。見つけたねずみが暮らすことにすると、かえるやうさぎ、他の動物たちも次々にやってきて「わたしも入れて」。てぶくろは、今にもはちきれそうになりますが…。ウクライナの昔話で、絵も異国情緒たっぷりですが、子どもの共感をそそる作品です。

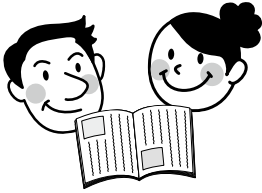
エウゲーニー・M・ラチョフ/え うちだりさこ/やく 福音館書店 1965年



『みんなうんち』

うさぎは「あちらこちらで うんち」。ねこは「うんちをしたら あとしまつ」。形や色、におい、うんちの仕方や後始末の方法は生き物によって様々。楽しみながら、子ども達が好きな「うんち」のことが学べる科学絵本です。

五味太郎/さく 福音館書店 1981年



【幼児への読み聞かせ②】



幼児への読み聞かせで困った！Q&A

Q 読み聞かせの途中で、絵本に反応して子どもが話しかけてきたり、ストーリーとは関係ない他のものに興味を示したりした場合は？

A 自分がわかっていることや興味の対象を主張し始める時期です。無視したり、否定したりせずに、まず認めてあげましょう。絵本を読みながらでも、うなずいて共感してあげることで子どもは納得します。

また、子どもの視点からの発見など、逆に教えられることもあります。

Q 子どもの目を見て読んだ方がよいか？

A 3歳児ぐらいになると、自ら絵本の世界に入っていく力が育ってきます。目を見たり大げさな表現をしたりせず、絵本の世界に集中させるように読みましょう。

0～2歳児ぐらいまでは、絵を見ながら子ども達の目に向かって、話しかけるように読んであげるとよいでしょう。

Q 年齢の違う子どもが混じっている時には？

A 年齢の違う子ども達に読み聞かせをする場合には、絵本の選び方に注意が必要です。小さい年齢の子どもでも楽しめるような絵本を入れるとよいでしょう。「赤ちゃん絵本」といわれる本の中にも、幼児が楽しめるものがあります。



幼児向け絵本の選び方

子どもは何も言わなくても大人の心を感じ取るものなので、まずは自分が楽しいと思える絵本、好きな絵本であることが大切です。

その上で、幼児への読み聞かせのために、次のようなことを考慮して選ぶことをおすすめします。

①文章

絵本の文章を耳で聞いて楽しむので、声に出した時の言葉の響きやリズム感が耳に心地よいものであること。またわかりやすく簡潔であること。

②絵

描写がしっかりしていてイメージを広げてくれるようなもの。物語のテーマをも表現しているような芸術的な要素を持つもの。

③文と絵の調和

文章と絵がよく合っていて、語りと絵による相乗効果で表現されている作品であること。

④内容

主題がしっかりとしていてわかりやすく、親しみやすく楽しめるものであること。

昔話は内容を変えたり省略したりせず、正しく再話されているもの。

⑤子ども達が、何度も繰り返し読んでほしいと望む作品

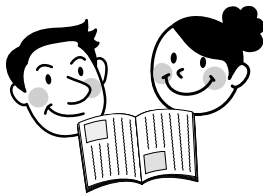
参考文献

『絵本でひろがる子どものえがお』 高山智津子、徳永満理／著 チャイルド本社 2004年

『子どもがよろこぶ！読み聞かせ絵本101冊ガイド』 西本鶏介／著 講談社 2003年

『保育と絵本』 瀧薫／著 エイデル研究所 2010年

『読み聞かせわくわくハンドブック』（前掲書）



【小学生への読み聞かせ】

✓ 発達と絵本

小学生になると、幼児の頃に比べて長い時間集中することができるようになり、科目の勉強、学校行事などにより子どもの興味が段々広がっていきます。長い物語、理科や社会に関係する読み物など、読み聞かせで読む本の選択の幅も広がります。

ひらがな・カタカナを習って自分で字を読めるようになりますが、1・2年生の場合1つの文章を読むのにも労力があるような状態です。この頃の子どもが本を楽しむには、大人に読んでもらった方が良いでしょう。学年が上がるにつれ、読み聞かせに対して幼児のように反応することは少なくなりますが、子ども達は心の中で考えをめぐらせているのかもしれません。

✓ 読み聞かせのコツ

読み聞かせの後、子どもが自分で読めるように本を用意しておく、本を手取る時間を設ける、ブックリストを配布するなど、気軽に本を手取れる環境を整えるよう配慮しましょう。

また、本の紹介をするブックトークを読み聞かせに付け加えるなど、他の方法と組み合わせてみるのも一つの方法です。

学校で読み聞かせをする場合、全校または全クラスなど人数が多い時は、ちょうどよい人数に分けて行うなどの工夫が必要なこともあります。また、以前読み聞かせで使った本の記録があれば参考になります。先生が読み聞かせをする時は前任の先生や学校司書と、読書ボランティアの方は学校とよく相談しましょう。学校は学年ごとに同じ年齢の子どもが集まっているので、比較的読む本を選びやすい面もありますが、児童の状況を考えて本を選ぶことが大切です。



小学生向け絵本の選び方

興味や理解度などの個人差が大きくなるので、p.2「読み聞かせの基本」、p.4「読み聞かせの注意点 Q&A」で説明したことを基に、テーマや難易度を幅広く考えて絵本を選ぶ必要があります。また、後で子どもが自分で読めるよう、選ぶ際には学校図書館または近くの公共図書館にあるか、書店ですぐに入手できる本かどうかを考えましょう。

1・2年生

幼児期に読み聞かせをしてもらった子どもは、慣れているので少し長めの物語絵本でも落ち着いて聞くことができるでしょう。

学校など初めての場所で読み聞かせをする時は、長い絵本と短い絵本、言葉遊びの絵本などを取り混ぜつつ、聞くことができるかどうか子どもの様子を見ながら絵本を選んでいくようにするとよいでしょう。読書の楽しさを子どもに身をもって感じてもらい、子どもの興味に合わせて少しずつ絵本の幅を広げていきましょう。

3・4年生

抽象的な思考が徐々にできてくる時期で、ユーモアのある本など選べる絵本の幅が広がります。自然や地理を扱った絵本、実験につながる科学読み物など、色々な作品を読んでみましょう。

5・6年生

クラブ活動などを経験してさらに自分の世界が広がってくる5・6年生は、読書離れを起こしやすい時期でもあります。人間関係やテーマが複雑なもの、話の流れが複雑なもの、文章や言葉遣いが難しいものなど、5・6年生に向く絵本もあるので、機会を捉えて読み聞かせしましょう。

参考文献

『えほんのせかいこどものせかい』 松岡享子／著 東京子ども図書館 1983年

『おやちれんがすすめるよみきかせ絵本 250 低学年向 2003～2012』（前掲書）

『図書館ブックレット 8 読み聞かせ』（前掲書）

『読みきかせ絵本 260 高学年向（2003～2009）』 広瀬恒子／〔ほか〕編集 親子読書地域文庫全国連絡会 2009年

小学生におすすめの絵本



『みずたまレンズ』

虫になったつもりで葉っぱについた水玉をのぞくと、向こうにある物が大きく見えたり小さく見えたり、不思議なレンズに変身！ 光の屈折と水の性質に興味をわかせる科学絵本です。

(小1～)

今森光彦／さく 福音館書店 2008年



『どんなかんじかなあ』

僕の友達は目が見えない。どんな感じか、目をつむると…。他の人の気持ちを想像するきっかけになる本。読み聞かせをしながら一緒に目をつむったり耳をふさいだりしてみてもいいかな。

(小3～)

中山千夏／ぶん 和田誠／え 自由国民社 2005年



『だいくとおにろく』

流れの速い川に橋をかけるにはどうすればいいかと大工が考えていると、川から鬼が現れた。「目玉を寄越せば、俺が橋をかけてやる」。大工はどうする？ 日本の昔話絵本です。

(小1～)

松居直／再話 赤羽末吉／画 福音館書店 1967年



『ウェン王子とトラ』

子どもを殺されたトラが村を襲う。トラをしずめるために王は息子のウェンを差し出すが…。大胆かつ繊細なタッチで、迫力のある物語を味わうことができます。

(小5～)

チェン・ジャンホン／作・絵 平岡敦／訳 徳間書店 2007年



【特別支援学校・特別支援学級での読み聞かせ】

～絵本の選び方、おすすめの絵本～

絵本の選び方

- ◆それぞれの障害や程度は様々です。一対一で読み聞かせをする場合は、何に興味を持っているか、学校でどんな本を読んでいるかを確認して選びましょう。先生方に希望を伺うと、「年長～小学校1・2年生向け、簡単な物語、言葉遊び、手遊びも。」「物語ではなく、くり返しがあるもの。時間は10分」など具体的な要望がある場合がありますので参考にします。
- ◆弱視であるなど、見えにくい子どもがいるため、大型絵本を希望する学校もあります。子ども達が椅子に座る場合や車椅子の場合、読み手は立って読むことが多く、その場合1人ではできないので、絵本を置く台の用意や持ち支える補助の方を依頼しましょう。
- ◆『もこもこもこ』（谷川俊太郎／作 元永定正／絵 文研出版 1977年）など、音や言葉のリズムを楽しむ絵本、『きよだいなきよだいな』（長谷川摂子／作 降矢なな／絵 福音館書店 1994年）など、くり返しがある絵本が喜ばれます。また、『くだもの』（平山和子／さく 福音館書店 1981年）など食べものの絵本や、『たまごのあかちゃん』（かんざわとしこ／ぶん やぎゅうげんいちろう／え 福音館書店 1993年）など、動物が登場する絵本も好きです。
- ◆視覚に障害のある子ども達には、絵本の絵を触って読み取ることができる『てんじつきさわるえほんぐりとぐら』（中川李枝子／さく 大村百合子／え 福音館書店 2013年）や、『てんじつきさわるえほん ノンタンじどうしゃぶっぶー』（キヨノサチコ／作・絵 偕成社 2013年）などがおすすめです。読み聞かせをしながら、絵を触って確かめてもらいましょう。また、5・6歳になり、長い物語も楽しめる年齢になると、耳から楽しむことができるように文章が工夫された本「愛蔵版 おはなしのろうそく」シリーズ（東京子ども図書館）や、「子どもに語る」シリーズ（こぐま社）などがおすすめです。
- ◆聴覚に障害のある子ども達には、手話での読み聞かせも行われています。読み方のマニュアル等は市販されていません。県内では「まーの・あ・まーの」という団体が甲州市立勝沼図書館で定期的に読み聞かせを行っていますので、参考にしてください。

プログラムの例

- | | |
|-------------|--|
| ①導入 | 手遊び「ろうそくぱっ」 |
| ②音・リズムの絵本 | 『もこもこもこ』 谷川俊太郎／作 元永定正／絵 文研出版 1977年 |
| ③ロシアの昔話絵本 | 『おおきなかぶ』 A.トルストイ／再話 内田莉紗子／訳 佐藤忠良／画 福音館書店 1966年 |
| ④くり返しを楽しむ絵本 | 『きよだいなきよだいな』 長谷川摂子／作 降矢なな／絵 福音館書店 1994年 |
| ⑤わらべうた | 「もちっこやいて」 |
| ⑥終了 | 手遊び「ろうそくふっ」 |

参考文献

『特別支援学校での読み聞かせ』 東京都立多摩図書館／執筆 東京都立多摩図書館 2013年

おすすめの絵本



『きよだいなきよだいな』

リズムカルに読むのがコツ。ページは絵をじっくり見る子どもに合わせてめくりましょう。「あつたとさ あつたとさ」のセリフと一緒に声に出してもらおうと、リズムに合わせて手を叩く子どももいます。大型絵本がおすすめです。

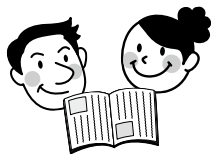
長谷川摂子／作 降矢なな／絵 福音館書店 1994年



『三びきのやぎのがらがらどん』

ロングセラーの昔話絵本。ストーリーや結末がわかりやすく、小学校1・2年生向けの本を希望する場合におすすめです。注意点はトロール。大喜びして笑う子どももいますが、怖がる場合は迫力を抑え気味に読みましょう。

マーシャ・ブラウン／え せたていじ／やく 福音館書店 1965年



【やってみよう！ 読み聞かせの会】

読み聞かせの会の企画

誰に？

幅広い年齢の子ども達に読み聞かせをする場合は、小さい子どもに合わせて絵本を選びます。とはいえ、聞く力に差があるため、0～3歳の会、4～6歳の会、といったように分けて実施しましょう。人数があまりにも多い場合は、同じ日に同じプログラムで時間を変えて回数を増やして実施するなど、工夫しましょう。

いつ？

赤ちゃんの場合は、機嫌の良いことが多い午前中に多く開催されています。学校では、朝の読書の時間、授業時間、読書週間中のイベントなどに開催されていますが、どの時間が実施可能か学校に確認しましょう。

どこで？

子育て支援センターや図書館のように親子一緒に参加なのか、保育所・幼稚園や学校のように集団の子どもと保育士や教師の参加なのかによって、内容を変えます。

内容（プログラム）は？

導入（本の世界にスムーズに入り集中するための）、メインの絵本、次の絵本、わらべうた、終了の順に流れを決めましょう。

同じジャンルの本ばかり選ぶのは避け、「食べもの絵本」と「音やリズムを楽しむ本」、または「動物の本」と「乗り物の本」など様々な楽しさを組み合わせましょう。また、物語が楽しめるようになる3・4歳からは、長い本と短い本、外国と日本、昔話と創作といったように組み合わせを工夫し、メリハリをつけましょう。赤ちゃん向けのプログラムは、季節のプログラムを紹介した本『赤ちゃん絵本であそぼう！』（前掲書）が参考になります。

プログラムの例（0～2歳）

- ①導入 てぶくろ人形 「くまさんくまさん」
- ②音・リズムの絵本 『もこもこもこ』 谷川俊太郎／作 元永定正／絵 文研出版 1977年
- ③動物の絵本 『たまごのあかちゃん』 かんざわとしこ／ぶん やぎゅうげんいちろう／え 福音館書店 1993年
- ④わらべうた 『かれっこやいて』、『うまはととし』
- ⑤終了 てぶくろ人形 「くまさんくまさん」

プログラムの例（3～5歳）

- ①導入 手遊び 「ろうそくぱっ」
- ②外国の創作絵本 『かいじゅうたちのいるところ』 モーリス・センダック／さく じんぐうてるお／やく 富山房 1975年
- ③日本の創作絵本 『だるまちゃんてんぐちゃん』 加古里子／さく・え 福音館書店 1967年
- ④わらべうた 『東京都日本橋』
- ⑤終了 手遊び 「ろうそくふっ」

プログラムの例（小学校1・2年生）

- ①導入 手遊び 「ろうそくぱっ」
- ②日本の昔話絵本 『だいくとおにろく』 松居直／再話 赤羽末吉／画 福音館書店 1967年
- ③外国の創作絵本 『よかったねネッドくん』 レミー＝チャーリップ／ぶん・え やぎたよしこ／やく 偕成社 1969年
- ④科学絵本 『ふしぎなナイフ』 中村牧江、林健造／さく 福田隆義／え 福音館書店 1997年
- ⑤終了 手遊び 「ろうそくふっ」

プログラムの例（小学校3・4年生）

- ①導入 手遊び「ろうそくぱっ」
- ②外国の創作絵本 『きつねのホイティ』 シビル・ウェッタシンハ／さく まつおかきょうこ／やく 福音館書店 1994年
- ③日本の創作絵本 『じごくのそうべえ』 田島征彦／作 童心社 1978年
- ④言葉遊びの絵本 『かぞえうたのほん』 岸田衞／作 スズキコージ／え 福音館書店 1990年
- ⑤終了 手遊び「ろうそくふっ」

プログラムの例（小学校5・6年生）

- ①導入 手遊び「ろうそくぱっ」
- ②外国の創作絵本 『ロバのシルベスターとまほうの小石』 ウィリアム・スタイグ／さく せたていじ／やく 評論社 1975年
- ③中国の昔話絵本 『王さまと九人のきょうだい』 君島久子／訳 赤羽末吉／絵 岩波書店 1969年
- ④科学絵本 『ホネホネたんけんたい』 西澤真樹子／監修・解説 大西成明／しゃしん 松田素子／ぶん アリス館 2008年
- ⑤終了 手遊び「ろうそくふっ」

≫≫ 役割分担は？

広報（約1ヵ月ぐらい前から）、配布するプログラムの作成、誰がどの絵本を読むか、大型絵本の場合に持って支える補助係、絵本の用意、緊急時の連絡係、案内係など役割分担を決めましょう。

≫≫ 準備は？

ぶっつけ本番は失敗の元です。必ず声に出して読む練習をし、セリフや言いにくい言葉などを確認しましょう。練習の時は、本番と同じように子どもに見せるように持って読み、どのくらい時間がかかるかも確認しましょう。リハーサルをする、可能なら誰かに聞いてもらうなどして、声が聞こえるか、絵本の持ち方はよいかなど自分では気づかない点についてアドバイスしてもらいましょう。

読み聞かせの会としては、手遊びやわらべうたは当日の担当者全員ができるように練習をし、予備の絵本（不特定多数の場合は、赤ちゃん絵本など、年齢が違う子ども達の絵本）を用意しましょう。

本番

≫≫ 会場は？

子ども達は絵本の絵が見える位置、なるべく前方に扇形に座ってもらい、読み手から全員の顔が見えるか確認しましょう。子ども達に絵本の絵が見えるか確認し、子どもが椅子に座っていて見えないという場合は立って読みましょう。

≫≫ 流れ

はじめの挨拶→プログラム実施→読んだ本の紹介→プログラム配布→おわりの挨拶というような流れを決めてやってみましょう。

≫≫ 終了後

簡単な反省会をし、記録を作りましょう。話し合う内容は、プログラムや本選びは適していたか、難しかったか、子ども達の様子、うまくできた点、できなかった点などです。日時、場所、参加人数、読み手、プログラム、反省点などを記録しておき、メンバーが何人もいる場合はノートを作って貼る、データを互いに送付するなど共有する工夫をして、次の読み聞かせの会に活かしましょう。

参考文献

『赤ちゃんと絵本であそぼう！』（前掲書）

『おはなしおばさんのきいてきて・おはなし会』 藤田浩子／編著 近藤理恵／絵 一声社 2002年

『読み聞かせわくわくハンドブック』（前掲書）



発行日 平成26年3月1日

編集・発行 **山梨県立図書館** (かいぶらり)

YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY

〒400-0024

甲府市北口2丁目8-1

TEL.055-255-1040

FAX.055-255-1042

URL <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

この冊子に関するお問い合わせ先: 山梨県子ども読書支援センター (山梨県立図書館内)

* 本冊子掲載の表紙画像を個人的な目的に使用する以外で複写・転載することはお控えください。

* 当館ホームページ上からも冊子をご覧いただけます。